

◆全体テーマ「人と人と心をつなぐ地域づくり」 ・ H24年3月3日「人と人と心をつなぐ地域づくり」をテーマに区民会議フォーラムを開催

	審議テーマ	課題	提言	取組	審議の継承
地域交流・文化部会	・高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり	地域で支え合うコミュニティシステムづくり a. 社会福祉協議会 ・利用者へのPR不足 ・利用頻度向上への取組み ・区全域での支え合い・助け合いの展開との関連付け b. 町会・自治会 ・地域でのつながりの希薄化 ・対象者の情報入手が困難 ・担い手不足と参加者確保が困難 ・災害に備えた日頃の活動 c. ボランティア団体 ・利用対象者への情報発信不足 ・活動場所や人材、資金確保が難しい その他 ・高齢者の生活の足 ・高齢者のメンタルヘルス	①広報活動(ガイドブック作成や総合相談窓口の設置) ・市政だよりと区別号の発行 ・ガイドブック(保存版)の発行 ・総合相談窓口の設置(ワンストップサービス) ②地域の絆づくり(ささえあい・見守りを進めるための具体的な方法の紹介と展開) ・町会・自治会等による支え合い活動の運用・展開 ・小地域での見守り・支え合いの仕組みづくり ・地域活動等を通じた地域交流の場の創出 ③担い手の発掘と育成など ・「生涯学習推進会議」の設置目的の明確化 ・区の地域人材育成方針の策定検討 ・「(仮)成人学級推進委員会」の新設 ・シニア地域デビューの企画を有効活用	【市政だより特別号】 ・25年4月1日発行。部数83,500部。全世帯ポストイグ及び区内転入者等に配布。 ・高齢者は、孤独死防止、認知症への支援、活躍の場の紹介、各種施設・相談窓口や公的サービスの紹介。 ・障がい者は、子どもから高齢者に至るまで、内容が多岐に渡るため、相談窓口・施設を掲載予定。 【ガイドブック】 ・ガイドブックは、市政だより特別号の内容とも重複があるため、特別号の内容を踏まえて、25年度に編集を進める。 ・地域住民のつながりや地域課題解決力の強化を目的とした、区の「町内会事業提案制度」のさらなる活用について検討中。H22年1件、H23年2件、H24年4件と増加。 ・町会・自治会相互の情報交換は連合会の事業を通じて実施。 ・また、区では区内事業者の協力による「高齢者の見守りネットワーク」事業を、町内会・ボランティア団体では一人暮らしの個別支援、見守りの活動を展開中。	
		・区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり	・広報活動の更なる工夫 ・「にぎわい」感の創出 ・世代を超えた区民参加を実現するための連携やネットワーク ・施設・設備の充実 ・行政の協力支援	①文化担当官の設置 ・多くの区民がさらに芸術・文化を楽しめる体制づくり ・継続した文化行政を実施する体制づくり ・各団体との連携や地域情報の収集と発信のための調整・相談機能 ②(仮称)麻生区文化会議の設置 ・芸術家や団体等とのネットワーク強化 ・周辺施設との連携拡大、顔が見える関係づくり ・情報発信、相互協力、横断的な組織としての活動情報の連携 ③川崎市都市景観条例の見直しと弾力的な運用 ・関係者を交えた協議(規制の緩和など) ・街並みと芸術文化催事の「にぎわい」が共生したまちづくり	担当部署・関係団体と、区民会議提案や地域活性化ビジョン(新百合ヶ丘地域活性化ビジョン策定委員会作成)を踏まえ、平成26年度以降の芸術・文化ネットワーク組織の確立に向けて協議調整中 ・景観計画特定地区の屋外広告物設置基準の改正についてまちづくり局が関係地権者等と調整中 ・川崎市都市景観審議会で基準の改定について審議
環境・緑化部会	・循環型のまち・生ごみリサイクル	・「エコのまち麻生の推進・地産地消と生ごみリサイクル」の継続発展	①生ごみリサイクル講習会を定期開催 ・生ごみリサイクルリーダー派遣制度の活用 ・区廃棄物減量指導員連絡協議会などとの連携 ②写真展の継続実施 ・写真展の継続実施と区民への浸透促進 ・募集方法や展示方法の工夫 ③区独自の広報を ・「生ごみ減量・資源循環」の普及・啓発 ・「ごみを減量させたい」という強い意思と広報の工夫 ・独自で身近な実践例の紹介・広報 ・より効果的な方向活動の検討	・「生ごみリサイクルモデル事業」の実施 ・H23年9月5日「循環型のまち・生ごみリサイクル」をテーマに区民会議フォーラムを開催 ・「麻生区生ごみアンケート」の実施 ・25年3月21日(木)に麻生区役所にて、環境局主催の生ごみリサイクル講習会を実施予定。 ・「生ごみからできた堆肥・肥料でつくった花や野菜の写真展」の開催 ・エコ啓発パンフを作成しH22年7月から公共施設で配布。 ・25年度中に、環境やごみ減量の特集した市政だより区版特別号を発行予定。	
			④市民農園に優先枠 ・市民農園借用条件に生ごみ使用者優先枠を設置 ⑤「仮・あさお広場(ファーマーズマーケット)」の定期開催 ・堆肥と農産物を交換できるシステムの構築 ・ファーマーズマーケット ・区全体で循環型まちづくりを目指す	25年2月に市民農園当選者が来庁(麻生市民館)する機会に、3月21日に麻生区役所で開催される生ごみリサイクル講習会の案内実施。それにより、市民農園での適正な生ごみ堆肥の利用を促す。 ・市関係部署と情報交換。肥料取締法等の法的な規制や初期投資などの問題 ・環境局が明大農場と連携し、麻生区内の家庭で作った生ごみ堆肥を活用するモデル事業を実施中	
			①地域に限定されない里山ボランティアの構築 ・管理の行き届かない緑地の保全管理システムづくり ・区全体の緑地保全・管理をする団体の立ち上げ ・保全管理団体を増やしていくシステムの構築 ・緑の保全活動を通じた新たなコミュニケーションの場の形成と地域の絆づくり ②「麻生区里山ボランティア」事業の推進 ・「麻生区里山ボランティア」の定着発展 ・区民会議の調査審議を継続発展する新しい形	・緑の保全活動に関する勉強会の開催 ・活動への参加とヒアリング調査の実施 ・モデル事業「里山ボランティア」の実施 【麻生区里山ボランティア事業】 ・H24年地域課題解決型提案事業として、手入れが行き届いていない緑地の保全作業を実施(主催:麻生の緑を守る会) 〔緑地保全作業〕6月24日月読緑地、7月22日・8月26日栗木緑地、9月24日・10月28日千代ヶ丘西久保緑地、11月25日・12月23日東百合丘4丁目緑地、1月27日・2月24日古沢都古緑地で実施。合計9回。 〔緑の討論会〕3月2日13時半から麻生区役所会議室で実施予定。事例紹介、事業報告や意見交換。	